

上田 勉

**新常磐交通 来年 4 月にいわき市内 15 のバス路線廃止へ 運転手不足や減収背景に**

「新常磐交通（明治団地、高野公秀代表取締役社長）は 11 月 18 日、来年 4 月の春のダイヤ改正で、現在運行している一般路線バス 15 路線を廃止する事業計画を示した。運転手不足と、不採算路線の維持が厳しいことを理由とし、主に入遠野、菊田小など、中山間地域などの路線 49.58 km が対象で、過去最大の規模となる。

市街地や通学への足がなくなる地域もあり、入遠野地区のバス停付近の住民からは「診療所なども回るバスなので、車のないお年寄りには不便になると思う。代替りの交通手段について行政で検討してほしい」と対策を求める声も上がっている。

同社では、運転手の退職者が相次ぐ一方、低賃金などにより新規採用の確保が難しく、運転者数はコロナ禍前の 2019（令和元）年度の 168 人から 138 人まで減少し、通常運行を保つためには現状で 30 人ほどが不足し、ダイヤ改正後も 15 人足りないという。

さらに高齢化も顕著とされ、定年者の再雇用も含めて 60 歳以上が半分を占めており、平均年齢は 58 歳という。加えて、コロナ禍や少子化に伴う利用客の激減、原油高を背景とした燃料費の高騰などに伴い路線バス経営は大きな打撃を受けており、昨年度は約 2.5 億円の赤字を計上。赤字路線を高速バスなどの内部補助で維持することが困難な状況となっていることから、大幅な削減を決断した。

今回の廃止により、系統数は 133 から 69、便数は平日が 693 本から 623 本、土日・祝日は 342 本から 225 本に減少する。スクール系統は 43 から 20 の半数以下にまで減り、平日 1 日あたりの利用者 1 万人のうち、約 3 千人に影響が生じる見込み。

18 日の記者会見で、門馬誠常務取締役は苦しい台所事情を説明し、「路線バスを第一に考え、市民の足を確保しようと、総力を上げて守ってきたが、断腸の思いで市民の皆様におわびしかない」と声を絞り出し、路線バスを守るためにも市民に理解を求めた。」（「いわき民報」2023.11.20）

**【廃止される路線】**

▽平―谷川瀬▽平―好間中―榊小屋▽平―平工―中央台―玉川―小名浜▽平―若葉台▽平―鹿島―洋向台、平―鹿島 S C―洋向台▽中央台―飯野―高専前―医療 C―内郷、中央台―飯野―高専前―一高―医療 C―内郷▽湯本―桜ヶ丘、湯本―桜ヶ丘―田場坂▽湯本市内循環（内・外）▽湯本―遠野高校▽上遠野―大平―入遠野、上遠野―川畑―入遠野▽菊田小―鳳城、菊田小―万治、菊田小―南台、菊田小―井戸沢▽小名浜―江名―西原―光洋高校▽泉市内循環▽（急行）泉―イオンモール▽植田―磐農―勿来工業

■ 2 つの市町村にまたがる路線バスには、国から補助金が支給される。しかし、14 市町村が大規模合併したいわき市には、補助金は支給されない。

■ 路線バスが廃止されると、高齢者や高校生などの交通弱者は、本当に困る！



【いわき駅のバスターミナル（いわき市）】（2023 年 11 月 25 日撮影）



【新常磐交通のバス（いわき駅）】（2023 年 11 月 26 日撮影）